

# 三世代交流による「おらおら」「ふたふた」高松ひとづくり推進事業

出雲市高松コミュニティセンター

## 1 高松地区の概要

### (1) 位置と地勢

出雲平野のほぼ中央に位置し、地区の北西には浜山自然公園が横たわり、南境には神戸川の清流が、中央には斐伊川から分流する高瀬川が東西に貫流する。

### (2) 地区を構成する5つの町

高松町・白枝町・松寄下町・浜町・下横町。古くから稲作等の農業が盛ん。約50年前からは浜町を中心にぶどう栽培が始まり、今では島根ぶどうの産地としても知られている。

### (3) 学校の状況

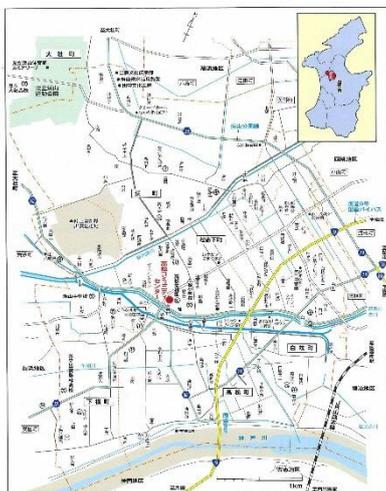
地区内には4つの保育園と公立幼稚園・小学校・中学校、県立高等学校があり、様々な事業において各種団体・機関との連携を図っている。

### (4) 近年の様相

国道9号出雲バイパスの開通や大型商業施設の出店等により、住宅やアパートの建築が進む。平成24年に地区人口が1万人を突破して以降微増し続けている。出雲市内で3番目に人口が多い。  
(平成31年1月末現在)

### (5) 出雲市高松コミュニティセンター

施設の老朽化に伴い、平成30年3月に移転新築。敷地面積・延床面積ともに拡張し、地域の新たな拠点となった。



(高松地区周辺地図)

### 地区データ

[平成31年1月末現在]

- ◇面積 9.23km<sup>2</sup>
- ◇距離 東西 3.3km 南北 4.3km
- ◇世帯数 4,011戸
- ◇人口 10,522人

## 2 事業の趣旨

### (1) 地区の課題

転入者の自治会加入が進まず、核家族や少子高齢化も進行する中で、子ども・若者・高齢者の三世代の絆は徐々に希薄になっていく恐れがある。

### (2) 事業名の説明

#### 出雲地方の方言

「おらおら」—おおらかで明るく優しい  
「ふたふた」—なごやかに心を開いてお互いの絆を深め合う

### (3) 事業の目的

住民一人一人を主人公として、「おらおら」「ふたふた」とした住みよい地域を目指し、人づくり・組織づくり・体制づくりを進める。

ア 世代間交流により絆を深め、互いの顔が分かり支えあえる地域づくりを行う

イ 農業等の地域の特色を継続させて次世代に良さを伝え、農村地域への愛着を深める

ウ 各課題に取り組むプロジェクトチームでの活動を通じて人づくりを進め、次に繋がる土台をつくる

### (4) コミュニティセンターの役割

地域の人材を育成しコーディネーターとなって住民を支え、仲間の輪を広げていくこと。

地域住民の自主的な取組を支援しながら本事業を進める。

## 3 具体的な取組内容

### (1) 高松なかよしコンサート

三世代交流をテーマに初開催した住民手づくりのコンサート。

運営：実行委員（三世代22名）

出演：17団体

450名

来場：1200名



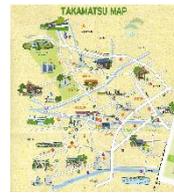
(コンサートの様子)

## 特徴

- ア 小学生がイベントタイトルを命名
- イ 中学生がポスターデザイン制作
- ウ 園児～高齢者の三世代が出演・交流（イベントポスター）



特徴 完成後にマップ掲載箇所を巡るバスツアーを開催（親子25名参加）



（完成したマップ）



（高松マップ探検ツアー）

## （2）米づくり体験学習

一年を通じて稲作を体験し、古くから地区で盛んな農業について学ぶ。

- 対象：高松小学校5年生約100名
- 指導：小学校周辺の田んぼの所有者・地域の高齢者団体など30名
- 活動：田植え・稲刈り・しめ縄作り・もちつき

## 特徴

- ア 昔ながらの手作業での体験
- イ 乗用田植え機・コンバインを走行させ、現在の農業を比較体験

## （3）浜山黒松育成祭

浜山に黒松を植え、豊かな地域づくりに寄与した高松の偉人・井上恵助翁の功績を後世に伝え環境を守るための活動。

- 活動：浜山公園内の落ちた松葉を集め松を守る。「こでかき作業」を実施
- 参加：三世代350名（過去最多）

## （4）高松七恵まつり

38名の若手実行委員主体の夏祭り。  
開催：8月14日 来場：4,000名

## 特徴

- ア まつりの準備・イベント内容等は委員の希望で毎年変更
- イ 委員やPTAによる手作りの夜店
- ウ 実行委員は2年任期で入れ替え



（実行委員会の様子）（まつり当日のにぎわい）

## （5）高松マップづくり

地区の神社仏閣、施設、歴史、文化等を盛り込んだマップを作成。

- 制作：編集委員会（地域の代表6名）
- 編集：現地視察・写真撮影・校正会議
- 発行：4,000部（11月完成）
- 配布：町内・学校・市内コミセン

## 4 評価と成果

### （1）評価 “否定しない風土”

経験者が新たな人材を生かしながら否定せず受け入れる風土が新たな取組にも生かされ、「やりたいことが形になる」という達成感や楽しさを感じ、事業への協力者がさらに増えた。

### （2）成果

- ア 年間を通じた三世代交流活動により、距離が近づき、互いに支えあい助けあう風土が醸成された
- イ 子どもや若い世代が高松の歴史や文化、農業等の良さにふれ、地区への愛着や関心が高まった
- ウ 自ら実行委員会を立ち上げ、企画から実施までを主体的に行う事業が増えた
- エ 今回の対象事業以外にも参加しやすい環境が広がり、新たな担い手が増えた

## 5 今後の課題と見通し

### （1）今後の展望

- ア 三世代交流事業を継続し、地域の絆を深めていく
- イ 住民同士がふれあう多様な活動や事業を掘り起こし、多くの地域リーダーの育成に取り組む
- ウ 活動の趣旨・目的を良く理解し、実践することができるコミュニティセンター職員の資質向上に努める

### （2）2つのスローガン

- ア 一人の百歩より百人の一步
- イ いつまでも住んでいく高松  
今後もコミュニティセンターの果たす役割を深く考え、地域と共に歩を進める。

（文責：マネジャー 新宮 梨子）